

つくしの家だより

HP アドレス <http://ichiyokai.sakura.ne.jp/>

No. 109 2022. 12. 1

〒421-0522
静岡県牧之原市相良 240-1
(児童発達支援・放課後等
デイサービス)
つくしの家
(生活介護事業所)
つくしホーム
☎ 0548-52-2225
事務局 52-0825
F A X 52-1156
e-mail:tsukushihome@
aioros.ocn.ne.jp

どんなものさしを・・・

栗林 均



ある本の中に、佐賀県にお住いのお母さんが書かれた文章がありまして。紹介させていただきます。

『幼稚園の母親参観に出席した。明朗快活な子なので、園生活もバラ色だろうと期待していた私。がく然とした。保育期間が短かったとはいえ、息子のスローぶりはあまりある。さえない子という言葉がびったり。帰り支度をする際も、いちど脱いだスモックをまた着る始末。翌朝「今日は何でも一番よ」とバスを見送った。夜はプール開きに備えて、水に顔をつける特訓。食欲だけは人並み以上だった息子は、いつの間にか、ほとんどはしをつけなくなっていた。ハッとした。マニュアル通りのバカ母親をやつてのけたのだ。入園したば

かりで、新しい環境に必死で慣れようとしていた息子にとつて、家庭は安らぎの場ではなくてはならなかったのに。「ママ、僕どんなに一生懸命やつても一番にはなれないんだ」息子の真剣な言葉に、心がとても痛んだ。ごめんなさい。もう無理強いはない。どんじりでも不器用でも健やかに育つてくれればいい。産声をあげてくれた、あの瞬間の思いを。気が持たが楽になった。あれから三ヶ月。友達もいっぱいできて、毎日元気に通園している。懸念していたプールも、十秒以上潜水できるまでになった。シャンプーの際、いつも泣きじやくついていた息子。マイペースで頑張ろうね。』こんな文章でした。

つくしの家では、園とお家とでやりとりするために「連絡帳」を使っています。園での活動や、子ども達が見せてくれた表情をお家の方に伝えたり、お家からは園から帰った後の子ども達の様子や休み中のお出かけの様子、通院の様子などを書いて下さっています。私達は日中の子どもの園での様子しかわかりませんで、お家での様子やお母さん達の思いが書かれている連絡帳はとても楽しみです。時々「こんなことがあったようです」と私のところにも先生たち

が見せに来てくれます。

数年前、あるお母さんが連絡帳に書いて下さった文章を紹介させていただきます。このお子さんは、つくしの家に三歳(年少さん)で入園しました。そして三年間を過ごし、地域の小学校の支援学級に進んで行きました。実は入園する前に、保健師さんも心配して市の健診後の療育教室「わかめサークル」にずっと誘っていたのですが、なかなか参加はしていただけませんでした。幼稚園に希望を出して、三ヶ月後に入園を控えた年明けの一月、初めてわかめサークルにご両親と来てくださいました。サークルの活動にはほとんど参加できませんでしたので、終わった後に少し関わらせていただきました。それから数回、わかめサークルに来て下さり、その度にお母さんに声をかけさせていただきました。お母さんの口からは就園にあたっての不安な言葉は聞かれず、「購入した用品のひとつずつに名前を書いていきます。積木ひとつひとつに書くんですよ」…、幼稚園に向けて準備をされている言葉が聞かれました。そんなお母さんに保健師さんは一度発達の検査を受けてみたらどうでしょうか、と声をかけ、三月の中旬に受ける事になりました。三月下旬のお昼前にお母さんからつくしに突然の電話が入りました。「今、幼稚園を断つてきました。つくしの家に通うことにしました。今日の二時に伺ってもいいですか」と。そんな出会いでした。

そして四月に入園、その初日の連絡帳にお母さんが書いて下さった文章です。——『息子が七ヶ月の時に仕事復帰し、それからしばらくが世話をしてくれ、息子もお利口に待っていてくれたり……。二歳すぎても話せなく、ずっと心配はしていたのですが、いつかは……そのうち……と三歳になり市の言語聴覚士さんのテストの結果、言葉は一歳三ヶ月程度と言われ、わかつてはいたものの、かなりショックでした。が、幼稚園の入園準備をしていたこの七ヶ月間、ずっと心配と不安ばかりしてきたので、つくしにお世話になると決めた時、ほっとした気持ちでいっぱいになりました。それから二週間、息子の出来ない事ばかりを数えていた私が、出来る事を数えるようになりました。そうしたら息子も少しずつおだやかにになりました。今は家族全員、この子どもも楽しむに育ってくれるか、とても楽しみにしています。色々とお迷惑をおかけしますが、よろしくお願ひします。』



最初に紹介させていただいた本の中にこんな言葉がありました。『わが子を測るものさしは、わが子にありません。ほかの子どもと比べることができないものさしなのです。ともすると、わが子を測るのにほかの子どものもものさしを使うことがあります。このとき使うものさしは、とても長いものさしを持つてくるのです。それを使って、わが子を測るのですから、わが子の劣っているところ、悪いところなど、マイナスの面しか測ってもらえません。わが子の輝き、プラスのところをわが子にないのです。だから、わが子をほめるよりは、注意したり、叱ったりしてしまいます。これでは、子どもは輝きません。自信を持った行動をしなくなり、親の期待や願いとだんだん離れていきます。わが子を測るものさしは、わが子にあるのです。昨日のわが子を基にしたものさしで、今日のわが子を測るのです。そして、よいところ、昨日とは違う輝きを見つめます。それを、わが子に話してあげます。それから、明日の期待をやさしく語ってあげます。それが、わが子の明日のものさしになります。この連続こそ、わが子の価値あるものさしです。』……と。

お母さんの連絡帳には、こんな文が続いていました。——『息子は音楽が大好きです。車や新幹線、電車、アンパンマンも好きです。時々鼻歌を歌ったりしています。食べ物はおにぎり(ツナ)、納豆ごはん、コロッケ、カレー、みそ汁、バナナ、

スナック菓子が好きです。というより、その他のものは、ほぼ食べません。以前は、もつと色々食べていたのですが……。遊びは、ミニカーや携帯電話のゲーム(親としては、あまりやらせたくないのですが……)、最近ではジョーバに乗るのが好きです。外だと、すべり台がお気に入りです。食事は、気がむくとスプーンで食べます。飲み物はマグマグでしか飲みません。(コップを練習しています。が、遊ぶかこぼすかです)服は、Tシャツなどは、腕さえとおせれば自分で着ます。ズボンも手伝わないとはいけません。靴下もはけません。靴は自分ではきません。眠くなるとゲタゲタ笑い出します。今、思いつく限りを書きました……。』

私達は、つい育ってほしい姿、願いを込めたいろいろな長さのものを子ども達にあてがいたくなりながら、お母さんの連絡帳を読みながら、好きなこと、好きな食べ物、今できること、できないことのひとつずつ……。この子だけのものさしを持つて、これから始まる一日一日を歩いて行こうとするお母さんの思いが感じられた、そんな懐かしい風景を思い出しました。もう中学生になつていく頃でしょうか……。

おかあさん

ぼくがはじめて
すがわらまこととかいたとき
おかあさんのかおが

にこにことなりました
うれしそうになりました
やさしくなりました
そしてぼくのすきな はんぱーぐを
つくってくれました
なんでおかあさん
やさしくなったんだらう



今日もホールの中から、あの頃と同じように子ども達の楽しそうな笑い声が聞こえています。『今』という時間をただ精いっぱい楽しんでいくようにも見えます。こんな時間を過ごし、積み重ねながら、子ども達のものさしの小さなぬもりがひとつずつ増えていくのかも知れませんが、夕暮れの街に色とりどりのイルミネーションが灯りはじめました。今年もあたたかなクリスマスが迎えられますように……。

(二羊会理事長・つくしの家園長)

おかげさまの心

増田 隆

日を追うごとに深まる冷気や、夜を彩るイルミネーションがクリスマスや師走の訪れを知らせてくれます。一年を振り返る時期となりましたが、皆さんはどんな年をお過ごしになりましたか？

つくしホームでの大きな出来事は、厳しい暑さが続く七月、新型コロナウイルスの流行が発生し、約一週間の休園となってしまったことです。感染者の激増が伝えられていた時期です。で何時誰が感染してもおかしくはない状況でしたが、利用者七名、職員四名が感染してしまいました。幸いにして重症化する方はいませんでした。これからはインフルエンザの流行も心配です。改めて感染防止対策を徹底しながら、健康第一で日々過ごしてゆきたいと思っています。コロナにも罹らず、病気やケガでのお休みもなくほぼ皆勤でつくしホームを利用してくれた森田加奈子さんが、十月二十一日に県内の入所施設に入所しました。加奈子さんは昭和五十三年二月につくしの家に入園しました。つくしの家でいろんな療育・訓練を経験しながら平成一年つくしホームに入園し、約三十五年の月日を過ごしました。入所する前日、



ホールで加奈子さんを送る会が行われました。加奈子さんは翌日、県内の入所施設に入所されました。「ガタン」、「ドン」、「サラサラ」等という音によく反応し、いろんな擬音を聞くと身体全体を動かしながら笑います。時には自らいろんな言葉を発しながらユニークな動きの踊りで楽しそうに身体を動かします。音楽が大好きで、激しい曲から優しい歌、ロック、演歌から唱歌までいろんなジャンルの音楽に耳を傾けていました。横で歌を歌っている時に、少しでも音程を外すと、「フツツ」と笑うとても繊細な耳を持っています。楽器演奏も得意で、ピアノは独特の和音とリズムで弾き続け、時折「ねえ、聴いてる？」と言わんばかりに周りの人に声を出して反応を確かめます。打楽器も左右交互に狂いのないリズムで叩きます。人差し指を中指の下にくぐらせると「オルガン、ピアノが弾きたい」、頬を軽くたた

くと「のどが渴いたよ」等、加奈子さんオリジナルのサインで意思や気持ち伝えてくれて、思いが伝わりにくい時には大きな声で呼び続けてくれました。ある時、急に加奈子さんが仰向けに寝たまま両足をそろえて上に伸ばして何かを訴えました。お母さんは足が痛いのか？ズボンを交換したい？等思い当たることを返しますが、うなずいてくれません。途方に暮れたお母さんは、「はいはい、足だね」と半ば投げやりに答えると、すつと加奈子さんが納得してくれたと笑いながら話してくれたことがありました。一泊旅行で出かけた東京デイズニールランドで、慣れないトイレに苦戦したり、使い慣れていない枕で眠れず、ホテルのゲームコーナーの椅子に加奈子さんとお母さんと三人で座りながら長い時間を過ごしたり：いろんな思い出が心に浮かびます。

お父さんもお母さんもいろんな行事や保護者会の活動に休みなく参加してくれ、さりげなく花壇を手入れしてくれたり、つくしホームの為にいろんなことをしてくれました。今は亡きおばあちゃんもよき理解者で、運動会やクリスマス会には姪っ子さん達も含めて、家族全員で参加してくれた事も多々ありました。旅行、バス遠足やボランテニアさんたちとの触れ合いの中で、いつもお母さんは「加奈子がいたからこそいろんな場所に行け、通常なら知り合えない人たちと知り合うことができました。この子には本当に感謝していますよ。」と話してくれました。ことあることにお母さんは、加奈子さんのおかげでいろんな経験ができる、と言っていました。私たちも全く同じ思いです。今ではあまり聞かれなくなつた「おかげさま」という言葉の大切さを噛みしめています。その気持ちを大切にしてきたからこそ、加奈子さんが前向きで明るく、誰にでも好かれる存在になったのだと思います。何に対しても、どんな事にも感謝する気持ちを持ち続けることは、とても尊い事だと改めて思いました。そして、「つくしがあつたからこそ、ここまでこれたんだよ。」と言ってくれた言葉の重みを、ひしひしと感じています。誰であつても家族と暮らし、朝行つてきます、と家を出て、ただいま、と家に帰ることは今では珍しいことではありませんが、四十年以上も前から続けてこられた時間の重みを痛いほど感じています。私たちこそ加奈子さんやご家族のおかげでここまで来ることができました。温かなご家族の想いと、加奈子さんの屈託のない笑顔をいつまでも忘れず、共に過ごした日々を心より感謝します。

(つくしホーム 施設長)

「毎日全力」

前田ともみ

息子の伊吹いぶきは今、吉田特別支援学校高等部の二年生です。現在の息子は、私達家族の想像をはるかに越えた成長をみせてくれています。

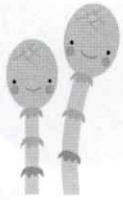
自閉症を伴って生まれ、多動が目立ったことから、ずっと追いかけて回す生活を送るのかと考えた時もありました。親子でのこぐま教室を経て、つくしに入園し、予想通り猪突猛進の生活スタイルでしたが、活動の中でも発語が増え、一番の趣味である鉄道をはじめ、ネコや鳥などの事をよく話していました。それから増えに増えた趣味は、もう両手に収まりきれません。自分の好きな事を語る時は早口で、長文なのに一切「噛み」ません。不思議です。一方で「人」と関わる事を苦手としているので、高等部から始まる職場実習に少し不安を抱えていました。挨拶や仕事内容の報告、相談などは必須です。悩んでいた当時、反抗期？真っ只中だった事もあり、こちらから「おかえり」と言っても「そんな事言わないで。もうご飯いらぬ。」と、こんな調子で本当に食事を抜く生活で、もう時間に解決してもらえないかと思つた時期でした。

でも「働く人になる為にカッコいい大人になる」を目標にしてきた事に気付き、ある時から活動の中で司会やアナウンスに立候補したり、ゲ

ームの提案や自分から仕事をみつけて積極的に行動するようになりまし。家でも洗い物や洗濯たたみなど、声を掛けなくても黙って近くに来てさりげなく手伝ってくれます。課題だった挨拶も、聞こえる声で交わせるようになり、たくさんの先生方に褒めていただきました。学校まで路線バスを使った自主通学、学校の友達との会話等々、こんなに変われるとは正直想像以上で、仲間の力って偉大だなと感じました。

小さい頃、汗だくでつくしの中を走り回ったり、園長先生の抱っこ訓練や、服を着る着ないの押し問答、でも先生方は常に笑顔で元気で、私の私も一緒に励まされて、我が子の特性というものを明るく前向きに捉えていけるような環境に導いて下さったのだと思つています。今では、自分で迷惑を掛けたと思えば「申し訳なかった。」と謝ってきたり、私の体調が芳しくないと思えば「大丈夫？」と気遣ってくれる優しい子になりました。その言葉掛けは息子にとつては何気ないものでも私にとつては録音したい位の宝物です。

今後いづれ社会人になるでしょうが、優しい気持ちを持ち続け、何時でも周りが笑顔で、温かな気持ちになれる存在であつて欲しいと願っています。



(つくしの家 卒園児保護者)

「思い出してみました」

丸山千代子

私の息子、将吾しょうごもつくしホームにお世話になるようになって9年目になります。27歳。もうすっかり大人の年になりました。

自閉症との出会いは衝撃的でした。まだ1歳の頃でした。言葉の遅れだけでなく、社会性の遅れを指摘され、

わが子の障害の予感に訳のわからない真つ暗な世界に引きずり込まれていくようでした。子育ての常識も全く通用しませんでした。母と子でありながら、コミュニケーションも取れなくて、どうしてこつちを見てくれないのか、何を考えているのか。頑張つても手応えのない子育てに疲れ、将吾の顔を見るのもつらく孤独で虚しいばかりでした。何をしても涙がこぼれ、ハンカチが手放せませんでした。そんな日が続いてかればばらけ経つたある時、私を変えてくれたきっかけに出会いました。

ラジオから「変えられる事は変える努力をしましよ。変えられない事は受け入れる努力をしましよ。」こんなフレーズが流れてきたんです。不思議な位に心にスツと入つて来ました。変えられない事は将吾の障害。でも私の心は変えられるんだ！そう気づいた時から心が軽くなりました。すると不思議な事に将吾にも

うれしい変化が表れてくれました。目が合ったり笑顔でこちらに向かつて走ってきてくれたり、手をつないでお散歩ができるようになったり。もちろん障害が治るわけではありませんが、母親の心の状態がこんなにも子供に影響するのだという事に驚かされました。やはり嬉しい変化があると子育てにもやる気が出てくるものですね。笑っている母親になるう！そう思い、それを実行する事ができるようにになりました。

年月が流れ、現在、将吾は重度知的障害を伴う自閉症なのでひとりで行えることも少ないですし、会話をすることも出来ません。でも何もわかっていない様でいて実は何でも分かっているのではないかと感じる不思議なところもあります。何事にも動じない穏やかな性格は、尊敬してしまふ程のもんです。将吾の生きる力なんだと思います。私の人生も終わりませんでした。大抵の苦勞は大した事ないと思える凶々しさも身に付きました。

今、私は野草(雑草)に興味を持つています。きっかけは、体調を崩しがちだった私の妹が、あるハーブティーを飲んで元気になったからです。野草や雑草は踏まれても刈られなくても力強く復活します。これからも私もそんな風に力強く生きてゆきたいと思つています。

(つくしホーム保護者)

「ちいさな運動会」 渡邊賢治

朝から青空が空一面に広がって、十月のある土曜日、つくしの家のちいさな運動会が行われました。コロナ禍の中、運動会は形を変えて場所を津波避難タワー下の人工芝広場に変更しました。これまでつくしホームと合同で行っていたものをつくしの家だけで、ご家族も二人までとしたり、お手伝いして下さっていたボランティアさんもなし。プログラム自体も短めで、等、従来のつくし運動会とは大幅に変更してきました。そんな避難タワー下の運動会も今年で三回目。今年はずいぶりに職員のお子さん、近くの相良高校の皆さんがボランティアとして手伝いしてくださいました。道具の出し入れや、競技の補助等、待機している子ども達と一緒にもらったりもしました。ボランティアさんの中には以前つくしに通っていた二人の園児のお兄さん達も来てくれました。つくしに来てくれた時は二人とも小学校低学年だったと思います。卒園してからも何度かボランティアに来てくれた子、自分の家の子と同年で小学校、中学校とサッカーの試合で何度か見かけていた子、何年かぶりに会って、当日ボランティアを頑張っている姿を見ると身体の

大きさはもちろんですが、心の中も成長している姿を見せてくれました。

コロナ禍前の運動会では園児全員のアトラクションの発表や、会場いっぱい広がってダンスをしたりしました。去年から「みんなでの事」としてバルーンをやっています。練習を満足に出来なかつたり、全員が揃っての練習はなかなか難しかったですが、本番は成功だったようです。自分は裏方としてバルーンの中に入っていたので、子ども達の表情は直接は見えませんが、バルーンの中で聞こえる子ども達の声、お父さん、お母さんの拍手を聞いていると、きつとみんないい顔をしてバルーンを持っていたんだろうな。バルーンから出てくると自分が思っていた以上にみんなの顔が輝いていました。競技の中で、巧技台に登って降りる、平均台を渡る競技では、ササッと登っていく子あり、自分の歩幅で自分のペースでも確実に前に進んでいる子もありました。これからも子ども達一人一人の成長のペースに合わせ、ゆつくりと歩んで行きたいと思っています。

隣の公民館の電源、トイレを貸して下さった福岡区長さん、ボランティアの皆さん、たくさんの応援をして下さった保護者の皆さん、一緒に運動会を作った下さりありがとうございます。

(つくしの家指導員)

ご挨拶

早いもので、今年もあと一ヶ月を残すのみとなりました。つくしの前の海岸に出ると、駿河湾をはさんで向こう側に富士山がぼっかりと浮かんで見えます。雪の帽子がかかりはじめました。長引くコロナウイルスの感染、昨年のこの欄に第6波への不安が、と書きましたが、今後は第8波に加えてインフルエンザの流行も心配されています。この間、つくしの家やつくしホームでも感染に気をつけながら日々を送ってきました。ワクチン接種も進み、感染者数の状況をみながら、活動や控えてきた行事なども、心配はしながらも少しずつ内容を広げなおこなっています。感染が始まって間もなく三年になろうとしています。一日も早い終息を願います。また、温暖化の影響でしょうか、台風や洪水、土砂崩れ、以前はあまり聞かなかった竜巻などによる大きな災害も各地で発生しています。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く復旧されますよう心よりお祈り申し上げます。

つくしの家では、この三月に十人の子ども達が卒園し、支援学校や小学校の支援学級、幼稚園等に進んで行きました。そして四月には三歳か

ら五歳の八人のお友達が入園、九月と十月にも新しいお友達が一人ずつ入園してくれました。三十三人の毎日通う子ども達と、親子でのこぐま教室の十人のお友達が通っています。隣接するつくしホームにはこの四月に特別支援学校高等部を卒業した一名を迎え十八歳から七十四歳までの二十一名の方がそれぞれのご家庭から通って下さっています。

小さな時期、お子さんの育ちを願いながらの親子教室、そして入園。就学前までの大切な数年間をつくしの家に通い、そして学齢期を学校で過ごし、卒業後の場所として地域の中にたくさんある就労や生活の場の中で、つくしホームに帰って来て下さる方もいます。小さな二つの園ですぐ通って下さるご家族の皆様と一緒に、地域の皆様に見守られながらこれからもこの歩みを重ねていけたらと思います。

後援会の皆様方をはじめ、ここを応援して下さいる方々には、今後とも変わらぬご支援をお願いしご挨拶とさせていただきます。

取扱金融機関のご案内

三菱UFJ銀行静岡支店	普通	4254072
口座名	つくしの家後援会 (以下同じ)	
静岡銀行相良支店	普通	145949
島田掛川信用金庫相良支店 (旧島田信用金庫)	普通	134511
郵便振替	00820-5-57983	
口座名	心身障害児通園施設 つくしの家後援会	

つばき

◆つくしの家のあゆみ

五月 ◎つくしホームと合同で避難訓練「地震↓津波」を想定し、近くのKプロック津波避難タワーまでみんなで走って避難をしました。◎半田智香先生が結婚され、木野さんになりました。おめでとーございます。

◎今年度も美容師の加藤さんがボランティアで子ども達の髪をカットしに来て下さっています。◎市内のパチンコ店「パオ牧之原店」様より、お菓子をたくさんいただきました。

◎新しい職員の高塚美紀先生が事務や子ども達の療育にもお手伝いをしてきています。

六月 ◎四日間の希望参観会をおこないました。◎おはなし会、読み聞かせグループ「パレット」さんが大型絵本、紙芝居、エプロンシアターを見せてくれました。◎市内の就労支援事業所で働いている卒園児の杉本優弥くんが、今年もお給料からお菓子をプレゼントして下さいました。

七月 ◎保護者学習会で先輩の保護者四名に来ていただき、小さな頃のことや学校のお話を聞きながら、有意義な時間を過ごしました。◎市内の稲本さんと森さんが園庭の草刈りをして下さいました。◎「発達支援コーディネーター研修」で、市内の

保育園、幼稚園等の先生方が来園。子ども達の活動の様子を見学していただいたり、話し合いの場を持ちました。◎消防署と市の女性消防隊の皆さんが来て下さり「花火教室」をおこないました。◎防災訓練で火災の訓練をおこないました。◎御前崎市の幼稚園・こども園の二人の先生が一日研修に来て下さいました。

八月 ◎県より、マスクとガウン、フェイスシールドをいただきました。

九月 ◎おたのしみ会をおこないました。ホールにおもちゃすくいや動物のお面屋さん、お菓子とり、外のプールにビニールプールを浮かべてのジャングルクルーズ、盆踊りなど楽しかったです。◎新しいお友達、芝田英史くんが入園しました。

十月 ◎もう一人、村松佑李くんが入園。にぎやかになりました。◎民生委員の皆さんが園庭の草刈りをして下さったり、お散歩交流でサイドパークまで一緒にお散歩。いつもありがとうございます。◎吉田町こども発達支援事業所の三名の先生が見学研修に来て下さいました。◎小さな運動会を近くの津波避難タワー下の人工芝広場でおこないました。一人ひとりががんばった運動会ができました。今回は相良高校生をはじめボランティアアさんが競技の準備や片付けなどして下さいました。



絵：ゆうだい

◆つくしホームから

5月 ☆つくしの家の園児達と一緒に避難タワーへの避難訓練をしました。☆民生委員さん達と久しぶりの散歩で、萩間川まで行ってきました。☆保護者の方々が敷地内の草刈りをして下さいました。

6月 ☆フラワーアレンジメントを行いました。持ち寄った季節のお花で個性豊かな作品が出来、沢山の方々に鑑賞してもらいました。☆民生委員さん達と散歩交流。日差しが降り注ぎ、風がとてもしつこい良かったです。☆せせらぎグループが小堤山公園に出かけ、つばきグループは秋葉公園方面にドライブしました。

7月 ☆七夕祭り、ゲームや歌で楽しみました。短冊の願いが届きますように。☆つくしホームで新型コロナウイルス感染が広がり、5日間休園。8月の夏休みを取りやめ、開園しました。☆移動スパー「とくし丸」さんと呼びました。利用者さんたちは好きなものを選んで買い物を楽しみ、おやつやの時間に食べました。☆水遊びの季節を迎え、プールが出てくると大喜びする人、恐る恐る水に入る人様々でした。☆民生委員さんともう一方お2人が園庭の草刈りをしてくださいました。

8月 ☆新型コロナウイルス感染拡大の影響で7月にできなかった夏祭りを行いました。箱積みゲームでは、箱が崩れる度に大騒ぎ、踊りを踊って身体

を動かした後はおいしいおやつを食べました。

9月 ☆お祭りは中止でしたが、つくしホームの近くの福岡区の獅子が来てくれました。びっくりしたけれど、嬉しかったです。☆出前を注文。みんな好きなものを注文しました。☆今年度3回目の民生委員さんとの散歩交流。お互い気心が知れた関係になりました。ありがとうございます。

10月 ☆櫻井麻里子さんが入職。ますます明るいホームになりました。☆6月から9月まで毎月静岡県よりマスクとビニール手袋をいただき、今月はフェイスガード、簡易防護服もいただきました。気を引き締めて感染対策を行います。☆民生委員さんが敷地内の草刈りをしてくださいました。☆森田加奈子さんが入所施設に移られました。沢山の思い出があります。☆利用者さんと職員のみで運動会を行いました。

編集後記

民生委員さんのお散歩交流が、コロナ禍の中、今年は4回行うことができました。また、年1回園庭の草刈りもして下さいます。手をつないだり車いすを押していただきながら海の公園や川べりをゆったりと歩きながらのあたたかな交流のひとつです。寒くなりますが、皆様どうぞお身体を大切にお過ごしください。